

令和2年2月28日

奈良保育学院  
学院長 多中 祥元 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 大原 敏敬

## 学校関係者評価委員会報告

平成30年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した令和元年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 谷口 偉（奈良市私立幼稚園協会会長、西大寺幼稚園園長、光が丘幼稚園園長）
- ② 辻村 泰聡（極楽坊保育園園長）
- ③ 大原 敏敬（奈良県専修学校各種学校連合会会長、大原和服専門学園理事長）
- ④ 祐岡 友里栄（奈良保育学院三友会会長）
- ⑤ 米田 久美子（元公立幼稚園園長、現いろは保育園園長、奈良保育学院第19期卒業生）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 令和元年6月15日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）  
第2回委員会 令和元年11月9日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）  
第3回委員会 令和2年2月15日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）

#### 3 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

## 学校関係者評価報告書

## I 重点目標について

## 1 重点目標1.について

|         |  |
|---------|--|
| 重点目標    | <p>1. 卒業学年全員の幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得並びに関係分野への就職</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適時の学生への関わり、専任全教員の情報共有、様々な教育活動等を通して、学生の就職に関する意識の向上を図る。</li> <li>・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得率 100%と関係分野への就職率 100%を目指す。</li> <li>・日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格取得率 100%を目指し、コミュニケーション力及び対人関係力の向上を図る。</li> </ul>   |
| 委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学院は小規模校でアットホームな雰囲気のもと、細やかな指導をしている印象がある。</li> <li>・資格・免許取得率及び就職率 100%を目指すのはとても素晴らしい。保育現場は命を預かる仕事なので、中にはこの人に免許や資格を与えていいのかと思う時がある。しかし、頑張って成長し、関係職に就く人として相応しい力を身につけられたら一番良いことだと思う。養成校にも様々な学生がいると想像する。</li> <li>・免許及び資格取得率の実績は素晴らしいが、働き方改革の視点では教員の業務に要する時間的負担はどのようなものか。</li> <li>・就職先の保育園において、保護者とのかかわり方が難しいと感じる場面があるようなので、現実味を帯びた模擬授業のようなことを行ってほしい。</li> <li>・働き方改革については、保育の現場でも対応に苦勞している。就職を進める際、処遇面を含め学生にどのように発信、指導しているのか。</li> </ul>                      |
| 学校側の取組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学業不振者に対する指導として、本学では次のような体制を採っている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◎状況により保護者を交えて面談を行い、個別指導を行う。</li> <li>◎1年次に単位不認定になった科目について、可能な限り修業年限内で単位取得可能になるよう2年次の時間割編成を検討する。</li> <li>◎学外実習科目が不可になった場合、修業年限内で実習を行えるように実習時期及び実習先を検討する。</li> </ul> </li> <li>・就職先については、学生の希望・複数教員の視点・学外実習での結果等も踏まえて個別面談を行い、各自に適した職種を選定する。</li> <li>・学習面及び学生生活に関する学生への適時な関わりを今後も継続していく。</li> <li>・本学院は小規模校で全教員の情報共有が行いやすく、教員の業務遂行は時間的に効率よく行えている。オープンキャンパスや入学試験が土・日曜や</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>祝日に入り連続勤務になった場合などは、教員に振替休日を取ってもらい、勤務による時間的負担を軽減している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対応については、教育相談関連の授業やピアヘルパー資格試験に向けての補講等の時間を活用し、事例を示し指導していきたい。</li> <li>・働き方については、従来と今の学生では考え方が変わってきている面も否めない。給料を含めた待遇面のみを重視することなく、園の特徴・求める人物像と学生個々人の特性を考慮して就職指導を行っている。</li> </ul> |
|--|---|

## 2 重点目標2.について

|         |   |
|---------|---|
| 重点目標    | <p><b>2. 第三者評価機関からの評価に基づき、職業実践専門課程認定校として更に充実した教育活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者評価機関からの評価に基づき、学校運営・教育活動の内容を明確にするとともに、教育の質の保証・向上を図る。</li> <li>・学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を引き続き開催し、教育課程の改善及び学校運営力の向上を図る。</li> </ul>   |
| 委員による意見 | <p>職業実践専門課程認定校として、更に充実した教育活動を推進してほしい。</p>   |
| 学校側の取組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者評価受審結果に基づく評価機関からの助言や指摘については、教員研修の追加及び必要事項の学則への追記等により改善に取り組んだ。引き続き、自己評価等を通して点検していく。</li> <li>・職業実践専門課程として認定され3年を過ぎ、本年度はフォローアップの対象年度である。フォローアップの過程で、必要とされる情報公開、学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会の開催などの学校運営状況を確認する。職業実践専門課程認定校としての意識と自覚を常にもち、今後さらに充実した教育・学校運営を実施していく。</li> <li>・文科省の実地視察では、「教職課程認定基準等の視点では概ね問題なく実施されている」との講評であったが、いくつかの是正すべき点については、適時改善していく。</li> </ul> |

## II 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像

|    |   |
|----|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人白藤学園の開学者である越智宣哲による建学の精神「敬身・敬学・敬事」に基づき、人格的・知的・情緒的に優れた幼児教育者及び児童福祉従事者を養成することを目指している。そのために、開講科目の70%以上を演習・実習科目として設定し、必要な専門的知識と技能を在学期間の2年間で習得する。以上の事項は、学則、学生便覧、学校案内パンフレット等各種広報誌、公式webサイトに記載しており、学外への周知とともに、教職員や法</li> </ul> |
|----|---|

|          |   |
|----------|---|
|          | <p>人役員にも公表している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標を達成するため、少人数制による教育、幼稚園・保育所・福祉施設との連携を密にした実習指導、学外ホールにおける演目発表、地域との関係性を重視したボランティア活動などを通して、学生が常に目標を持って活動できるような実践的取り組みを実施している。</li> <li>・平成 30 年度卒業生は、卒業資格 100%、幼稚園教諭二種免許状取得率 98%、保育士資格取得率 98%、両資格・免許取得者における関係職就職希望者の就職率 100%、ピアヘルパー資格取得率 76%であった。</li> </ul>  |
| 委員による意見  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許及び資格取得率の目標は 100%で、取得結果が 98%とのことだが、この数値も素晴らしいと思う。他の大学や短大を含む養成校での現状はどのようなものか。また、専門学校と大学との違いはどのような点なのか。</li> <li>・ピアヘルパー資格は現場での保護者対応で有用なので良い。</li> </ul>   |
| 学校側の取り組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学業成績及び学生生活の面で様々な学生がいるが、本学院では入学前のオープンキャンパスや進路相談会でも免許・資格取得と関係職への就職について説明しており、受験者は関係職への就業を意識して入学している。</li> <li>・引き続き、表現、保育内容、教育・保育実習科目などの担当教員間で連携を密にし、実践力を向上させる。</li> <li>・個々の学生に適時対応し、引き続き助言や指導を行う。</li> <li>・ピアヘルパー資格の試験に向けて、関連授業は勿論のこと対策講座を補講として行っているが、本年度は更に注力して取り組み、取得率向上を目指す。</li> <li>・専門学校として、学力だけではなく学生の個性を磨く教育を行っていく。</li> </ul> |

## 2 学校運営

|    |   |
|----|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められており、学校運営方針は教職員に明示し、周知されている。また、学園運営に関わる必要な諸規程は整備できている。</li> <li>・平成 24 年に学園創設 120 周年を迎えたことを契機に、中期事業計画として「120 周年ビジョン」を策定し、この中で学院の目的、目標を達成するため、関連事業計画を定めている。</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌で定め機能しており、組織の構成員それぞれの職務分掌と責任は明確である。しかし、今後厳しい学園運営が予想され、理事会・評議員会・各種会議では実効性のある徹底した議論が必要である。</li> <li>・教員の確保に関して、設置基準等の定めるところにより必要人員を配置している。賃金等処遇については、平成 26 年度から「目標管理制度」を実施し、その結果に基づき人事考課を行っている。人事考課の結果は当面、翌年度の賞与支給に反映させ、将来的には昇給にも反映させていく予定である。</li> <li>・平成 27 年度に学園内の LAN システムを構築し、教職員一人一人が PC を持ち、事務の効率化につなげている。</li> </ul> |
|----|---|

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な学生管理を行うため、学校管理システムの導入について検討する。</li> </ul>  |
| 委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の無償化に関して、幼稚園や保育所にどのようなことが必要なのか。また、それに関する影響等はあるのか。</li> <li>・奈良県では、今年度から保育者養成校で学ぶ学生を対象にした無利子の貸付金制度ができ、この制度では保育所に2年勤務すれば返還を免除されるとのことである。</li> <li>・養成校と各業界は大きく関係している。各学校で制度の活用を発信していくと良い。</li> </ul> |
| 学校側の取組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等教育の修学支援新制度が2020年度から新設される。本学院では、新制度の認定を受けるべく申請を行った結果、対象校として認定された。経済的に厳しい家庭の子女の支援を行い、更に学校運営体制を整備していきたい。</li> <li>・学生を支援する奨学金及び給付金については、あらゆる制度を学生へ周知すると共に、活用する。</li> </ul>                            |

### 3 教育活動

|         |   |
|---------|---|
| 評価      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育目標・育成人材像は、明確かつ十分な内容で定められている。</li> <li>・カリキュラムは、文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき目標達成に向け体系的に編成されており、各科目は監督官庁のシラバスモデルに基づき適正な位置づけがなされている。また、目標とする免許資格取得を支援する教育内容となっており、学年担当制によるきめ細やかな指導を実施している。</li> <li>・授業を客観的に評価・分析・改善するため、学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの集計結果は、各教科担当教員へ報告し、授業改善への活用を促している。平成29年度後期よりFD活動の一環として、集計結果に対するコメントを担当教員に依頼し、学生との双方向のコミュニケーションを図っている。</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確であり、学則およびシラバスに明記している。</li> <li>・教員の専門性レベルは監督官庁の資格審査に合格しており、育成目標に向けた授業を行うことができる要件を備えた教員を確保している。更なる専門性、授業力、校務執行力向上のため、学会・研究会・研修会への参加や研究紀要の執筆等を奨励している。</li> </ul> |
| 委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動を奨励しているとあるが、具体的にどのようなことか。</li> <li>・働き方改革が進められるなか、学校行事を遂行し、校務と研究の両方を行うことは時間的に困難ではないか。</li> <li>・学校運營業務を行いながら研究の時間を確保するのは大変だと想像するが、実際はどのようなものか。</li> <li>・学院では研究活動と授業評価を行っているが、目標評価として人事評価につながっているのか。</li> <li>・いい学校には良い教員がいる。質の高い教員養成が大切である。教員自身も</li> </ul>  |

|                |   |
|----------------|---|
|                | <p>研鑽を積んで、学生の学びに還元して行ってほしい。</p>   |
| <p>学校側の取組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会発表や研究紀要への投稿等の研究活動に取り組むことを教員に奨励しており、教員としての資質を向上させている。なお、研究活動及びその結果を学習指導や学校運営に役立てられるよう取り組んでいきたい。</li> <li>・教員対象の研修会を年4回程度実施している。研修会は、専攻分野における実務に関する内容と指導力の修得・向上のための内容である。</li> <li>・研究と指導は車の両輪と考えており、効率的な業務運営を心掛けて研究活動のための時間も確保していきたい。</li> <li>・研究は教員の知識や実践力の向上に必須であり、研究で得られたことを学生指導に活用することが大切である。養成校の教員は、このことを念頭に置いて学校運営にあたることが肝要である。</li> <li>・研究活動と授業評価を直接人事評価に繋げてはいないが、個人目標シートを管理し、面談等を通して評価している。</li> </ul> |

#### 4 学修成果

|                |   |
|----------------|---|
| <p>評価</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得率向上に努めており、取得者数とその推移に関する情報は明確に把握している。平成30年度卒業生は、全員が卒業資格を有し、幼稚園教諭二種免許状取得率98%、保育士資格取得率98%であった。日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格の取得も目指しており、平成30年度は合格率76%であった。免許資格取得率については引き続き向上すべく、学生の個性に合わせた教育や指導を継続して実施していく。</li> <li>・就職率の向上を図っており、就職成果とその推移に関する情報を明確に把握している。平成30年度両免許資格取得者の内、関係職への就職希望者の就職率は100%であった。引き続き、就職率の向上及び早期離職予防に向けて、卒業生との交流の機会を設けて身近なモデルを見聞きするなど、在学時から関係職への明確なイメージを持ち、就職に関する意識の向上と就職後のリアリティショックをなくす取組みを実施していく。</li> <li>・進路担当者を中心として前年度卒業生の就職先を訪問し、卒業生の様子を把握している。また、パンフレットや進学情報誌等での紹介や進路ガイダンスの講師として招聘するなど身近なモデルとして紹介することで、在校生の意欲も高めていきたい。</li> </ul> |
| <p>委員による意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の指導や関わりにより成果は上がっていると感じられる。</li> <li>・就職活動に関して学院生と共に教員が動かれることがあるが、何か方針のようなものがあるのか。</li> <li>・昨年度のピアヘルパー資格取得率が、これまでに比べて低いのは何故か。</li> </ul>  |
| <p>学校側の取組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に関して、新設園あるいは事前に学生の情報を具体的に伝達した方が良い場合などは、教員が同行する時がある。</li> <li>・学外実習先への配属学生が決定次第、各実習先を訪問し当該実習生の様子</li> </ul>  |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>を伝えると共に、実習先の状況を把握し、より円滑な実習が行えるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学修成果については、授業アンケート・学外実習先からの評価・授業の延長上に位置付けている表現活動発表会の演目に関するアンケート等を通じて、今後も把握していく。</li> <li>・年度により対象学生が異なり、担当教員が変更することもあるが、補講を強化し資格取得率の向上を図っていく。</li> </ul> |
|--|---|

## 5 学生支援

|         |  |
|---------|--|
| 評価      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の就職・進学指導に関する体制を整備し、就職・学業・生活面等、適時個別面談を実施、必要に応じて保護者にも連絡・面談を実施している。</li> <li>・学生相談に関しては、学年担当制をとって学生と密に関わることで適切に対応している。また、学園共有の教育相談室には教育相談員が常時在室しており、専門のカウンセラーも週1回来校している。教育相談室は主に系列高校の生徒が利用しており、学生の利用はほとんどないが、オリエンテーション時の利用案内のほか、平成29年度から学生便覧にも掲載している。</li> <li>・学費に対する支援体制は、日本学生支援機構奨学金制度、学費分納制度、緊急時貸与制度を整備し、給付型奨学金を含め個別に対応している。</li> <li>・学生の健康管理に関しては厚生担当教員を配置し、学園の養護教員と連携して取組んでいる。</li> <li>・クラブ活動は学生の自主性に任せており、自治会担当教員と連携しながら活動を適宜実施している。クラブに関する規程は学生便覧に明記しており、入学時オリエンテーションでの活動紹介や行事における発表などを通して、学生への周知をはかり、積極的な活動を奨励している。</li> <li>・保護者会として「三友会」を組織しており、定期的に総会及び役員会を開催している。また、三友会だよりや学園新聞、学校公式ブログ等を通して学生の活動の様子を伝えている他、成績不振学生や配慮を要する学生の保護者には個別に連絡をとり面談を行っている。</li> <li>・同窓会を組織しており、定期的に総会や会合を開催している。また、進路担当者を中心に卒業生の就職先訪問や転職希望者への情報提供や面談を実施しており、卒業後の支援体制も整えている。より一層の進路保障対策を引き続き検討していく。</li> </ul> |
| 委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方が就職や学生生活など全般にわたり日常的に学生に関わってくれることは、学生のみならず保護者にとっても心強く感じられる。</li> <li>・学外実習中の教員の実習先訪問は在学生にとって励みになり、卒業後の就職先訪問は卒業生にとって心強いもので、両取組共に良いことである。</li> <li>・卒業生が母校に来ることはあると思うが、就職先訪問に関しては今後も続けてほしい。</li> </ul>   |

|                |   |
|----------------|---|
| <p>学校側の取組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外実習の経験は就業意識や学習意欲の向上につながることもあるため、実習事前事後指導には更に注力していく。</li> <li>・就職先訪問は卒業生の様子及び就業環境を把握するため、継続して行う。</li> <li>・卒業生が離職や再就職の件で来校した際には、就職を斡旋する等支援している。なお、就職先訪問は今後も継続する。</li> </ul> |
|----------------|---|

## 6 教育環境

|                |   |
|----------------|---|
| <p>評価</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備のメンテナンス体制については、いずれの建物も耐震基準を満たしており、万全を期している。不具合がみられる場合は適宜メンテナンスを実施している。点検は、耐用年数の経過を目安として専門業者に依頼しており、中長期的な整備計画策定にあたっては、学園全体の財政状況を把握する必要がある。</li> <li>・平成 24 年度に校舎の大規模改修を実施し、学生の教育環境の向上を図った。今後も学生数や学園の財政状況を踏まえて改善していく。</li> <li>・セキュリティ管理については、監視カメラの設置、機械警備の契約、通用口の施錠、侵入防止扉の設置など、万全を期している。引き続き、安全管理に関する意識の向上に努め、危険及び事故防止を徹底していく。</li> <li>・学外実習に関しては、学外の関係機関と連携して十分な教育体制を整えている。実習事前事後指導を徹底しており、関係機関と連携して学生の指導にあっている。</li> <li>・修業年限や授業時数等を考慮すると、インターンシップへの積極的な参加は難しく、また、4 種 5 回の学外実習がインターンシップの役割を担っているとも考えられる。インターンシップに関する効果的なあり方については今後検討していく。</li> <li>・平成 28 年度より、防災備蓄の購入・保管、登下校・授業・学外実習に加えてボランティア活動に対応した保険加入を開始した。防災備蓄については、今後も定期的に補充・管理していく。</li> <li>・大規模地震に対応した消防防災訓練実施マニュアルを学園として作成しており、学園防災避難訓練を定期的実施し、危険物等の管理も徹底している。また、平成 29 年度に学校安全計画及び危機管理マニュアルを策定し、安全教育委員会を定期的開催するとともに、安全・防災に関する研修会も継続的に実施する。</li> </ul> |
| <p>委員による意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近起こった保育園児を巻き込む自動車による事故を受け、保育園では散歩コースを含め種々検討している。</li> <li>・保育の場における活動には色々と神経を使っているが、難しい面がある。</li> <li>・保育の場では、保育者のこどもへの暴言や暴力、保護者がレコーダーを鞆に隠し入れて事象を記録するなど、様々なことが起こっている。このような事案を授業でも採り入れて、学生指導に活用してほしい。</li> <li>・授業以外にも多くの講習会を実施して、手厚い学びの環境を整えているのが良い。</li> </ul>  |



|                |   |
|----------------|---|
| <p>学校側の取組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学院では授業でフィールドワークを行うことがあるので、授業等で学外に出掛ける際には注意を払っていくと共に、保育現場での引率等の業務に携わる際の保育者の留意点も学生へ伝えていく。</li> <li>・学内の教育環境については、日々の清掃や定期点検及び安全教育委員会等を通じて、状況の把握に引き続き努めていく。</li> <li>・保育の場での事案について、関連授業時に事例として示すと共に、事象に対する対応も示していく。</li> <li>・2年間に渡る各種講習会を引き続き実施し、保育の場で有用となる実践力を向上させる。</li> </ul> |
|----------------|---|

## 7 学生募集と受入れ

|                |  |
|----------------|--|
| <p>評価</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われており、当該年度の入学者、卒業者、就職希望者、就職者数は指導監督庁に現状を報告している。また、募集定員を満たす募集活動を行っており、学校案内は、志願者や保護者の立場を考慮した内容となっている。学校への問い合わせや相談については、全教員が対応できるような体制を整えている。</li> <li>・入学選考は、公平性を保つために全教員が関わり、個別に審査した後に協議により判定している。筆記試験及び面接試験により総合的に判断し、極端に成績不振または面接における評価が極端に低い者は不合格の判定となっている。また、入学選考に関する情報とその推移は正確に把握している。今後の見通しについては、高校訪問時における情報や進路相談会及びオープンキャンパスの参加状況、学校案内パンフレット資料請求状況等を参考に検討していく。</li> <li>・学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて低額であり、学生・保護者の大きな負担感はないものと推察される。</li> <li>・平成 31 年度は、高等学校の進路指導の時期も考慮して、オープンキャンパスの開始時期を早めると共に、その機会を増やして志願者への情報提供を行うことにより、入学志願の動機づけが早期に行えるようにする。</li> </ul> |
| <p>委員による意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの時期を早めた結果、参加状況はどうだったか。</li> <li>・高等教育の修学支援新制度に伴う変化など、どのようなものか。</li> <li>・来年度に向けて、オープンキャンパスの時期を早めるのは良い。今回改訂したパンフレットの印象が明るくて良い。</li> </ul>  |
| <p>学校側の取組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの回数は、昨年度が 4 回、本年度は 6 回である。参加者の状況は、実施した回により増減があったが、B 日程入試を終えた時点での合格者数は昨年度と同数である。</li> <li>・オープンキャンパスの内容及び実施時期については、応募実績を踏まえ検討する。なお、本学院の特徴である就職実績、実習指導、学生との関わり、学費面などを更にアピールして学生募集にあたる。</li> <li>・D 日程入試で所定の人数に達したため E 日程入試を行わない点は昨年度と同様である。経済面で不安を抱える人を応援すべく、本制度の周知・活用</li> </ul>   |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスの時期を早め、刷新したパンフレットを積極的に活用することにより、本学への志願の意識づけの早期化を図る。</li> </ul> |
|--|--|

## 8 財務

|         |   |
|---------|---|
| 評価      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に財務基盤は必ずしも安定していると言えない。引き続き、必要学生数を確保し、安定した財政基盤の確立に努める必要がある。</li> <li>・年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成及び執行している。</li> <li>・会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われていると認識している。</li> <li>・財務状況は、平成 27 年度より学院の公式 web サイト上で公開している他、必要に応じて開示している。平成 29 年度からは、学園統一の web サイトへと再編し、公開している。</li> <li>・平成 31 年度から学校単位ごとの毎月の収支状況の確認を義務化する。</li> </ul> |
| 委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎建て替えのような計画はあるか。</li> <li>・学院は採算がとれて結構だが、募集が厳しい学園内の他部署へ何らかの形での援助ができればよい。</li> </ul>  |
| 学校側の取組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務管理は法人で厳格に行っている。</li> <li>・本学院の定員数は充足されているが、学園全体としての財務状況は決して楽観できない。教育を取り巻く状況は目まぐるしく変化していく中、法人の 3 つの組織が一丸となって対応していく。</li> <li>・平成 24 年度に 1 号館の建て替えを行い、現時点で校舎建て替えの予定はない。</li> <li>・募集が厳しい部署に対して、学園内の各部署から知恵をだしていきたい。</li> </ul>  |

## 9 法令等の遵守

|    |   |
|----|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令や設置基準は遵守している。</li> <li>・平成 26 年度より学園共通の職場におけるハラスメント防止に関する指針を策定した。平成 28 年度には「服務規律の徹底及びハラスメントの防止」についての通知があり、ハラスメントについての相談マニュアルが作成され、相談窓口が設置された。</li> <li>・個人情報に関する管理は、教職員に周知徹底しており、志願者・学生・卒業生・教職員等の学校が保有する個人情報に対する保護対策は徹底している。</li> <li>・学生に対しては、近年、SNS への書き込みなどメディア機器を通じた情報流出が社会問題化していることを踏まえ、学外実習等の関係機関で知り得た情報を、意図の有無に関わらず流出させた場合には懲戒処分値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さについて指導している。また、「情報処理法」、「実習事前・事後指導」科目の授業時に、個人情報の保護と守秘義務に関する指</li> </ul> |
|----|---|

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>導を徹底している。引き続き、守秘義務の厳守について周知徹底させていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検及び自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。評価結果については、平成 26 年度より学校関係者評価委員会にて評価を実施し、平成 27 年度より評価結果概要および報告書を公式 web サイト上で公開している。その他、学校概要・教育内容・各実績などの教育情報は、公式 web サイト、学生便覧、学校案内パンフレット、各種進学情報誌、学園新聞等を通じて広く公開している。</li> </ul>                                     |
| 委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアのリテラシーについては、電子端末、クラウドの導入など就職してからも使用することが当たり前なので、個人情報に関する管理や SNS 等について、学生時から指導していただくことは望ましいと感じる。</li> <li>・情報機器等のメディアは、保育の場でも活用することがあるため、保育士に対して機器の使用法の習得を促進している面がある。</li> <li>・メディアリテラシーについての時代の要請には応えられるようにしてもらいたい。SNS でのつぶやき等のマナーや正しい使い方指導及び積極的な活用方法には積極的に取り組むと良い。</li> </ul>       |
| 学校側の取組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS については、入学時に学生に対して同意確認を採っている。オリエンテーション及び実習事前指導を含む関連授業等において、引き続き指導を徹底させる。</li> <li>・実習中は携帯を持ち込まない等、細部にわたり指導を継続していく。</li> <li>・法令については、監督官庁からの発出文書等に基づき遵守する。</li> <li>・メディアリテラシーについては、就職後のことも踏まえた指導を行っている。</li> <li>・SNS 関連のマナー及び活用方法については、個別具体的な事例を挙げて授業や講習会などの機会を通して指導を強化する。</li> </ul> |

## 10 社会貢献・地域貢献

|    |   |
|----|---|
| 評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会および地域貢献活動の一環として、平成 26 年度より、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした保育士資格取得講座（特例教科目講座）を開講している。また、奈良教育大学と連携して、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした免許状更新講習会を実施している。</li> <li>・子育て支援センターや保育園など地域の関係機関における行事への学生の参加や出張公演、ボランティア活動等の積極的な参加を促進・奨励している。ボランティアの活動状況は把握しており、活動結果については、公式 web サイトや学園新聞等を通じて広く公開している。</li> <li>・学園全体として環境問題への啓蒙活動を実施しており、学園周りの花壇の整備や空調の温度制限を実施している。引き続き、学生・教員への呼びかけ及び参加を促していく。</li> <li>・大規模災害時の二次避難場所として学園の敷地を提供している。学校現場は、学生の教育や養成だけではなく、社会への情報発信、地域活動の拠点としての役割を担っていることを再確認し、今後も広く社会に貢献した活動に取り</li> </ul> |
|----|---|

|         |  |
|---------|--|
|         | 組んでいく。   |
| 委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学園周りの花壇はきれいで、地域にも喜ばれていると思う。</li> </ul>  |
| 学校側の取組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関や保育園など地域の催しに積極的に参加し、引き続き地域貢献に取り組む。</li> <li>・教員免許状更新講習会の実施など、引き続き社会貢献に取り組む。</li> <li>・学園周りの花壇に花植えを行っているが、保育職での有用性も伝えた上、活動への学生参加をさらに促進する。</li> <li>・今年度、学生有志がオレンジリボン運動に参加した。今後もその意義、目的を伝え、参加を促進する。</li> </ul> |